

編集後記

『尾道文学談話会会報』第六号をお届けします。

今号には、寺杣雅人名誉教授、光原百合教授、藤川功和准教授の他、本学非常勤講師の木村大刀子氏と林原玉枝氏、尾道市立大学伝承文化研究会による六編を収めております。木村氏と林原氏は長年にわたり尾道市内で創作活動を進めてこられた方々で、談話会御担当の日はお仲間の姿も見えました。

参加者による「白樺の木の下で」には石岡孝善氏、内海昌子氏、亀田芳子氏、白井孝治氏、古澤和子氏の御投稿がありました。談話会には常連の方々だけでなく、新しい出会いも少しずつ増えております。談話という形式だからこそその楽しみや発見もあり、「本当に面白かったわー」とお声がけは嬉しいものでした。

さて、これまで談話会開催と会報発行に御尽力いただいてまいりました寺杣先生の御退職に伴い、この会は新たな幕開けを迎えることになりました。従来の方針を継承しながらも、今年度からは日本文学科教員十五名全員が交替で担当することになりました。その他、学科・学内外を問わず研究や創作活動に関わっておられる方々にも、魅力的なお話をいただく機会にしたいと思っております。基本的には毎月第一月曜日を開催日としますが、会場である尾道市立大学美術館と講師の都合で別の曜日に移ることもあるので、事前に日程を御確認願います。

民俗学者の柳田國男は、口頭による文芸の世界を「言語芸術」に分類しました。本学美術館における毎月一度の語らいは、慌ただしい日々の中で言葉の美しさ、技や

力を実感できる稀少な場となっております。

日本文学科は引き続き地域貢献を含め、ささやかな研究成果、専門性の社会還元に結びつくこのような機会を大切にしながら、一層皆様と楽しい時を共有できればと思っております。どうぞ今後ともよろしく御理解と御協力をいただけますようお願い申し上げます。

なお、本誌の刊行は、尾道市立大学学長裁量教育研究費によるものです。
(藤井 佐美)

尾道文学談話会会報 第六号

二〇一六年二月四日 印刷

二〇一六年二月四日 発行

発行者 尾道市立大学芸術文化学部日本文学科

印刷所 三原プリント株式会社

三原市和田一丁目五一三

電話 (〇八四八) 六四一六四三

発行者 尾道市立大学芸術文化学部日本文学科

尾道市久山田町一六〇〇一二

電話 (〇八四八) 二二一八三一

表紙デザイン

尾道市立大学大学院美術研究科美術専攻

竹内 彩子(たけうち・あやこ)

日	ニ	芸	ゲ	尾	オ
本	ホ	術	イ	道	ノ
文	ン	文	ジ	市	ミ
学	ブ	化	ユ	立	チ
科	ン	学	ツ	大	シ
	ガ	部	ブ		リ
	ク		ン		ツ
	カ		カ		ダ
	カ		ガ		イ
	カ		ク		ガ
			ブ		ク

2016.2.4

ISSN 2185 - 2456